

平成 30 年 5 月 11 日現在

機関番号：37102

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2017

課題番号：26780234

研究課題名(和文) 効率性の神話的效果に関する研究：切削加工を介した中小企業の戦略的提携事例を通じて

研究課題名(英文) Study for Revealing the Mythic Functions of Efficiency

研究代表者

上西 聡子(ホームズ聡子)(Uenishi, Satoko)

九州産業大学・経営学部・准教授

研究者番号：70632842

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、効率性概念に対する理論的深耕を通じて、効率性を追求する企業間で形成される戦略的な提携関係の動的なプロセスを探求することにあつた。

理論的研究では、経済学で取られてきた市場と効率性の関係を批判的に検討し、実際に存在する市場(いちば)における効率性の計算が道具やルールを利用して行われていることに注目した。経験的研究では、金属切削加工業を営む、株式会社山本金属製作所が、様々な企業との取引における効率性を計算するための装置として、どのような道具やルールをデザインし、そうした装置を通じて変遷した企業間取引を分析した。これらの成果は、学会での口頭発表や論文として発信した。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study was to comprehend the relationship between “efficiency” and “institution” from the perspective of institutional theory. Although the relationship between efficiency and institutions has mainly been discussed in transaction cost theory, it is also important in institutional theory, developed as a starting point to decipher the works of Weber (1920, 1976).

This work explores the implications of institutional theory which can be called “mythic functions” (Meyer, 2008, p.795) of efficiency by explaining the relationship between efficiency and institutions. I observe the mystic functions of efficiency in the transactions of Japanese keiretsu (q.v. Asanuma, 1989), a unique form of transaction between assemblers and subcontractors in Japan, by examining the relationship surrounding a subcontractor who processes parts for assembling.

研究分野：経営組織論

キーワード：効率性概念 計算装置 道具

1. 研究開始当初の背景

企業が効率性を追求することは、一般に認められるであろう。しかし、なぜ企業は効率性を追求するのかと問うたとき、その動機が生じる根源的な問いに対する十分な答えはこれまで与えられてこなかった。

加えて、近年、国内市場の飽和状態に伴う海外進出のために、日本企業にはこれまで以上の国際競争力が求められている。しかし、多くの議論は 1970 年～80 年代の系列取引を前提とした日本企業の競争力を探る制度分析に集約され、その後の長期的な景気低迷や国際的な生産拠点の分散、IT の進化とともに、その経済学的な効率性概念に基づいた説明力を失いつつあった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、新制度派組織論によって「合理化された神話」と捉えられた効率性概念に対する理論的深耕を通じて、効率性を追求する企業間で形成される戦略的な提携関係の動的なプロセスを探求することであった。

そこで本研究は、企業が効率性を追求する根源的な動機に対する理論的根拠を探求しつつ、技術的専門化が進んだ今日の製造業において、東大阪地区に集積する中小企業が中心となって形成されつつある、新たな戦略的な提携関係のあり方を分析した。

3. 研究の方法

本研究は、上述の学術的背景のもと、(1) 効率性の神話的效果を深耕するための理論的検討と、(2) この理論的検討のもとで照射される経験的な調査研究を行った。

(1) 理論的検討

効率性の神話的效果に関する理論的深耕については、a) 効率性の規範的根拠をめぐるウェーバーの近代化論の再検討と、b) 効率性をめぐる企業間の戦略的な関係構築を読み解くトリストの組織間ドメイン概念を再検討した。

a) については、新制度派が理論的根拠としていたマックス・ウェーバーの近代化論の理論的含意を探求することから始めた。加えて、効率性が追求される中で、計算可能な形式として具象化された会計や測定技術の発達とともに形作られてきた企業行動の論理を探求した。こうした作業により、効率性を規範的基準とする企業の根源的動機に対する理論的根拠を検討した。また、この議論は、ウェーバーの近代化論と官僚制論のミッシングリンクとしても知られており、社会学者を中心に検討されてきた学説史も検討した。

b) については、新制度派の議論に加えて、ポピュレーション・エコロジー（個体群生態学）の動的な可能性を探求しつつ、ドメイン概念と関連させ再考した。基本的に組織群の慣性を強調する個体群生態学では、組織群

の生存は外部環境に淘汰されるのみと考えられがちであり、組織群の慣性の理論的根拠としては、先行する成功企業を模した正当化が前提とされていた。こうした議論を踏まえて、規範となる参照組織に導かれた企業群の動的な可能性を論じていたのが、エリック・トリストの組織間ドメイン概念（inter-organizational domains）であった。この点について、研究代表者は初期の検討を事前に着手していた（上西聡子「ソーシャル・フィールドの構築を通じた環境マネジメント：Eric L. Trist の組織間ドメイン概念の検討」経営哲学学会第 30 回全国大会、2013 年）。

(2) 経験的研究

経験的研究については、切削加工を中心とした中小企業による戦略的な提携関係を、その形成プロセスの分析を含んだ事例研究を通じて進めた。切削加工を中心とした中小企業が中心となって形成されつつある、新たな戦略的な提携関係に注目し、わが国の産業競争力を担うと考えられてきた製造業の今日的な動向を分析の俎上に載せた。

具体的には、東大阪地区に集積する、製造業の下請け企業として独自の技術力を蓄えてきた中小企業を分析対象とした。既存の研究では、大手アSEMBラー（いわゆるメーカー）が中長期的な取引を前提として、部品を供給するサプライヤーを従え、熟練した関係特殊的技能の蓄積や徹底的なコスト削減を行うことで、わが国の製造業は強い競争力を獲得してきた、と説明されてきた。奇しくも今日の製造業において見られる技術的専門化は、こうした大手アSEMBラーが主導となった系列関係のもとで培われてきたのであった。

今日の製造業では、中間組織として競争に晒されてきた中小企業が蓄積してきた技術力を活かし、水平的・垂直的な提携関係を作り込みながら、大手アSEMBラー主導の産業構造とは異なった効率化を模索しつつある。本研究の研究課題は、こうした変化の渦中であって、異なる立場にある多様な企業がそれぞれの効率性を追求しながら、その行動自体に正当化され、どのような提携関係を作り込んでいくのかについて、提携関係の形成プロセスの分析を含んだ事例研究を行った。

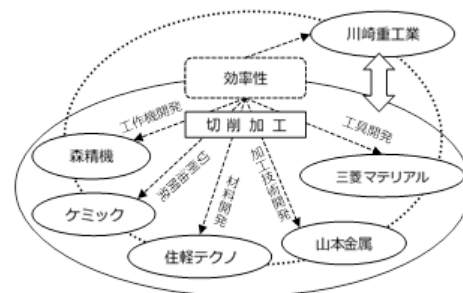


図 1 効率性と提携関係

4. 研究成果

本研究の成果は、製造業での取引において盲目的に追求されてきた、系列取引の効率性は、長年にわたる取引の結果、徐々に変化していきっていることが明らかとなった。それは、主にサプライヤーにおいて生じていた。

取引における川上・川下関係や受発注のポジションが変わったわけではなかった。ただ、系列時代に追求してきた効率性は、あくまでも大手アセンブラー視点からであり、それにサプライヤーは重圧を受けていた。

それに対して、今日ではサプライヤーが大手アセンブラーから資金的・技術的に支援を受け開発してきた技術や生産システムをもとに、自らにとって有利な効率性のあり方を提示していた。ただし、それが効率性である限り、大手アセンブラーにとってもメリットはある。いかにその取引関係に携わる企業がそれぞれの効率性を達成しながらも、取引関係としての効率性も達成できるのか、その方法が模索始めていた。

こうした発見事実は、本研究の成果として、次の「5. 主な発表論文等」で示すように、複数の論文や学会発表という形で発信した。

本研究を踏まえて、今後の展望として、戦略的な提携関係において、標準や基準として成立する数値を導出するプロセスとその道具に注目していきたい。サプライヤーにとって、自らが有利な効率性のあり方を示すということは、言い換えれば、自らの価値を比較考量できるように可視化していくプロセスでもあった。そのプロセスに用いられたのが、独自で蓄積してきた経験を、数値として示す道具の開発であった。これまで経験の蓄積の重要性は言われてきたが、いかにその経験が他社を説得できる形に落とし込んでいくのかという側面は見過ごされてきた部分でもある。今後はこの側面に焦点を当てて研究していく予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計11件)

上西聡子(2018)「デューイ「評価の理論」に含まれた価値評価の原理：価値評価に関する研究の方向性の展望」『九州産業大学経営学論集』第28号、第4号、11-21頁(査読無)。

上西聡子(2017)「製造業における企業間取引のコントロール：計算装置を通じた戦略的コンフィギュレーション」神戸大学大学院経営学研究科博士論文、http://www.lib.kobe-u.ac.jp/handle_kernel/D2003322

上西聡子・松嶋登・早坂啓(2017)「企業間取引の物質的实践：金属切削加工を可視化する計測機器」『計算と経営実践：経営学と会計学の邂逅(國部克彦・澤邊紀

夫・松嶋登編)』有斐閣、203-227頁(査読無)。

ホームズ(上西)聡子(2016)「製造業における系列取引のコントロールの仕組み：経験的研究が導く理論的課題の提示」『九州産業大学経営学論集』第27号、第2号、1-20頁(査読無)。

<http://hdl.handle.net/11178/282>

松嶋登・早坂啓・ホームズ(上西)聡子・浦野充洋(2015)「反省する制度派組織論の行方：制度的企業家から制度口ジックへ」『制度的企業家(桑田耕太郎・松嶋登・高橋勅徳編)』ナカニシヤ出版、30-52頁(査読無)。

ホームズ(上西)聡子(2015)「制度的同型化を通じた戦略的リアクション：携帯電話産業における標準にもとづいた異種混合の競争(1979年-2010年)」『制度的企業家(桑田耕太郎・松嶋登・高橋勅徳編)』ナカニシヤ出版、85-109頁(査読無)。

ホームズ(上西)聡子・早坂啓・松嶋登(2015)「物質的实践と企業間取引のダイナミズム：株式会社山本金属製作所の脱系列化への取り組みを通して」『九州産業大学経営学論集』第26号、第1号、41-58頁(査読無)。

<http://hdl.handle.net/11178/183>

Uenishi, S. (2014) “The Mythic Functions of “Efficiency”: A Case Analysis of the Performative Changes in the Transaction of Keiretsu,” *Kyushu Sangyo University Business Review*, Vol. 25, No. 1, pp. 49-64 頁(査読無)。

<http://hdl.handle.net/11178/124>

上西聡子(2014)「制度的同型化を通じた戦略的リアクション：携帯電話産業における標準に基づいた異種混合の競争(1979年-2010年)」『九州産業大学経営学論集』第25号、第2号、25-45頁(査読無)。

<http://hdl.handle.net/11178/154>

上西聡子(2014)「合理性の根拠としての制度：新制度派の礎となった業績に関する一考察」『九州産業大学経営学論集』第24号、第3号、1-14頁(査読無)。

<http://hdl.handle.net/11178/173>

Uenishi, S. and Matsushima, N (2013) “Organizational Field Comprising Competitive Relationships: The Case of the “Galapagos Syndrome” in the Japanese Mobile Phone Industry,” *Discussion Paper Series (Graduate School of Business Administration, Kobe University)*, 2013・19, pp. 1-6 (査読無)。

https://www.b.kobe-u.ac.jp/paper/2013_19.html

[学会発表](計4件)

上西聡子(2017)計測機器による企業間

取引の再編、経営哲学学会第34回全国大会.d

上西聡子(2017)町工場の計算装置、日本経営学会第91回大会.

上西聡子(2015)制度的企業家：制度派組織論の理論的意義と実践的意義、経営哲学学会・経営学史学会第11回合同九州部会.

Uenishi, S. (2014) Efficiency as accelerators: Dynamics of networking suppliers seeking efficiency within the dominance of Keiretsu, The International Federation of Scholarly Associations of Management World Congress in Tokyo.

(4)研究協力者 ()

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

上西 聡子(ホームズ聡子)(UENISHI, Satoko)

九州産業大学・経営学部・准教授

研究者番号： 70632842

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：